



外来診療案内 【受付時間】 午前 8:30～11:00 午後 13:00～15:00 【診療時間】 9:00～17:00

【診療科】

2025年3月現在

科名・専門外来名	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
リハビリテーション科 (ボツリヌス外来)	吉野				吉野		影近	影近	高橋	①③⑤ 高橋
内科	白田		白田 木倉		白田 飯田		白田 今村(循環器) 木倉		木倉 泉	
脳神経内科				小西		廣澤	小西	服部		
整形外科 (リウマチ外来)(手足の外科外来)	橋本 高田	高田 (リウマチ)	橋本 瀬川		高田		橋本 高田		橋本 瀬川	
脳神経外科	宮森				宮森			柴田	宮森	
泌尿器科					交代制	交代制	横山	横山		
精神科				永井		森			麻生	麻生
皮膚科				片岡						
眼科										②④福島
耳鼻咽喉科				浅井				①②④麻生 ③藤坂		
歯科	小倉	小倉	小倉	小倉	小倉 中條	小倉	小倉	小倉	小倉	小倉
糖尿病外来(内科)			白田	白田	白田	白田				
甲状腺外来(内科)			白田	白田	白田	白田				
嚥下外来(内科)					(隔週)木倉 飯田					
腎臓・高血圧外来(内科)										
パーキンソン病外来(脳神経内科)								服部		
頭痛外来(リハビリテーション科)									高橋	①③⑤ 高橋
高次脳機能外来(脳神経外科)								柴田		
小児科(小児整形外科)	峰松 森下	峰松	森下		峰松 森下		峰松 森下	森下	峰松 森下	森下
小児科(小児神経科)	本郷 平岩 倉本 宮森 松澤 五十嵐	畑崎 本間 倉本 宮森 五十嵐	金沢 本郷 松澤 倉本 五十嵐	本郷 山谷 松澤 宮森 五十嵐	金沢 本間 倉本 宮森 松澤	本間 ②④岡田 宮森 松澤	本郷 松澤 宮森 倉本 五十嵐	畑崎 本郷 松澤 宮森 倉本 五十嵐	金沢 本郷 倉本 宮森 五十嵐	畑崎 本間 倉本 宮森
てんかん外来(小児神経科)	本郷		本郷	本郷			本郷			
子どもの心の外来(精神科)	永井	永井	森 永井	森	森 永井	永井	森 永井	森 永井	森 永井	森

※完全予約制となっている診療科もありますので、事前にお問い合わせ下さい。 ※○数字は、第○曜日

【編|集|後|記|】

いつも『地域医療福祉 連携室だより』をお読みいただきありがとうございます。今回は、当院での小児・医療ケア児への取り組み等について取り上げました。医療的ケア児に対する支援は、まだまだ多くの課題があり、医療だけでなく地域の皆様や保護者、保育・教育・福祉関係者など、様々な方々と連携しながら課題解決に向け歩んでいけたらと思います。春の訪れが近づき気温の変動が激しい季節となりますが、ご自愛いただき新たな芽吹きを心待ちにお過ごしください。

相談支援科 帯刀 長勝

【お問い合わせ】

社会福祉法人 富山県社会福祉総合センター
富山県リハビリテーション病院・こども支援センター
地域医療福祉連携室

〒931-8517 富山県富山市下飯野36番地
電話 076-438-2233(代) FAX 076-438-8463

直通電話 076-438-2207

ホームページ <https://www.toyama-reha.or.jp>
E-mail renkeisitu@toyama-reha.or.jp



病院の情報を
もっと知りたい方は
ホームページに
アクセスしてね



地域医療福祉

連携室だより

Toyama Prefectural Rehabilitation Hospital & Support Center for Children with Disabilities

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

27号
2025年3月

Topics 小児整形外科

当院の小児整形外科についてご紹介させていただきます。小児整形外科は、小児の運動器に関係する全ての疾患を対象としています。小児整形外科といえば、发育性股関節形成不全(いわゆる先天性股関節脱臼・臼蓋形成不全など)や先天性内反足、ペルテス病などが以前は主な疾患でしたが、それらの患者数は減少傾向にあります。その他、脳性麻痺などによる麻痺や分娩麻痺などの神経障害、骨形成不全症・軟骨無形成症・くる病などの骨系統疾患、二分脊椎・脊柱側弯症などの脊椎疾患、歩容異常(内また歩行や尖足歩行など)、O脚・X脚、外反扁平足、各種外傷・スポーツ障害なども小児整形外科の対象疾患です。

成人整形外科と小児整形外科との最も大きな違いは、小児では成長による変化を考える必要があることです。小児では成長とともに自然に改善傾向がみられる場合がある一方、成長とともに変形・機能障害が徐々に悪化することもあり、成長という要素を考慮して治療を行っていくことが重要で、将来的な関節症発症などによる機能障害を予防することも大きな役割と考えています。そのため、装具治療・薬物治療・リハビリテーション・手術的治療などを年齢・疾患・身体状況をみながら適切なタイミングで行うよう心がけています。

診療においては、整形外科だけでなく産科・小児科や各健診機関からのご紹介も多く、他医療機関と連携しつつ院内の小児神経科・児童精神科・泌尿器科・歯科などとの連携により運動器疾患に付随する問題にも対応しています。多指(趾)症・合指(趾)症、強剛母指、骨折後の内反肘・外反肘変形などの上肢・足部疾患に対しては、豊富な経験と高度な技術をもつ当院の手の外科専門医が治療を行っています。また、疾患や状況によっては、県内外の各医療機関におられる専門医の先生にご紹介させていただき、当センターで治療後のリハビリテーションを行うこともあります。

2025年4月より、小児整形外科としては常勤医2人体制から常勤医1人・非常勤医1人体制となります。これまで骨折や化膿性関節炎などの急性期治療が必要な疾患については、ほぼ県内各医療機関の先生方にご対応いただいている状況でしたが、引き続きお願いさせていただくことになるかと思えます。大変申し訳ありませんがよろしくお願いいたします。その他、小児の整形外科的なことで気になることや困ったことなどがあれば、ぜひご紹介ください。受診に際しては、なるべく事前にご予約いただければありがたいですが、当日でも可能な範囲で対応させていただこうと思いますので、まずはご連絡ください。

小児整形外科 森下 公俊



峰松医師

森下医師





Topics

医療的ケア児・重症児の災害時避難



個別避難計画

令和6年、県内9つの市町村自治体や支援者が主体となって、各地区在住の医療的ケア児家族と一緒に個別避難計画が検討されました。一人一人のお子さんの家族背景・医療情報・医ケア内容／物品、地域のハザードリスクや支援者の実情、避難経路・避難先まで数多くの課題解決に向け、1年かけて立案されました。その一部始終に立ち会っ中で、何よりも大切なのは関係する多職種多業種の連携に尽きるということです。本事業計画は行政主導のため、ともすれば縦割り的な発想になりがちですが、行政・医療・地域・家族の間にある、それぞれ狭くはない隙間をどうやったら埋めることができるのか、そのために自分は何ができるのか?と考え続けるしかないと思いました。

非常用電源の確保

過去の大規模災害では、停電が回復するまで数日～1週間かかっています。能登半島地震では復旧まで1ヶ月以上かかった地域すらありました。日々、各種の高度医療機器(呼吸器・加温加湿器・吸引器・酸素濃縮器など)を使用する医療的ケア児にとって、災害時の電源確保は死活問題です。県リハ・こども支援センターでは小児科医師が中心となり、県の補助を受けながら、2年かけて電源を必要とされる在宅医ケアご家族に非常用電源を貸与してきました。しかし、県内広く見渡せば課題はまだまだ山積しています。各種医療機器は蓄電器で何時間持つ? 避難先に非常用電源はある? 医療的ケア児だけが使っていい? などご家族の心配は尽きません。



自助・共助・公助+互助

災害時対応は自助が8-9割、残りが共助と公助と言われます。超急性期にどうやったら自分や家族の命を守ることが出来るのか? 最低でも数日間、できれば1週間の医療・生活物品を確保するとはどういうことなのか? 在宅医療的ケア児の場合、この自助だけでも、ご家族にかかる物理的・精神的なご負担は計り知れません。

上記の避難計画を立案するプロセスで感じた大きな疑問は、医療的ケア児の公助はどうあるべきなのか? という視点でした。これまで全国各地で経験された大規模災害のたびごと、通常の一次避難所・福祉避難所は医療的ケア児の避難所としてはソフト・ハードとも到底機能しえないということでした。

重症児・医療的ケア児の避難所⇒先問題



- ◆避難所の段差で移動が困難
- ◆車いすで避難所に行っても身体の変形拘縮の為、車いすから下りれない
- ◆避難所の食事では胃腸などの経管栄養ができない

2018年西日本豪雨 倉敷市真備地区



医療的ケアは、気管内吸引や人工呼吸器などに**電源が必要**であり、停電などのライフラインが途絶えると重大な危機に陥ります

西日本豪雨後、真備町では**約1週間停電**が持続、断水は復旧までに約20日かかった

あまりにも当たり前のことですが、一般市民の避難計画ではなく、医療的ケア児の避難計画なので、公助において医療が果たす役割は大きいに違いありません。当センターは重症児・医療的ケア児の避難先となり得よう、体制整備を進めています。当院が医療的ケア児の災害時避難先として機能するためにはどうすればいいのか? 今後の重要課題と考えています。お隣の石川県では10年以上前から病院組織全体として在宅医ケア児避難訓練に取り組んでおられます。

こういった好事例にも学びながら、富山県でも災害時個別避難訓練ができないか…考えています。その時には、医療が主体となりつつ、民間企業・家族会・行政など文字通り多職種多業種でスクラムを組みながら互助の精神で向き合いたいと思います。

石川県医ケアセンター 常日頃の活動 当事者家族/家族会と自主企画された災害避難訓練

- 2011年3月11日 東日本大震災を機に避難訓練
「**尊いいのちを守る**」行動とスキルを得るために訓練
「**合同災害避難訓練**」(病院・家族会・患者会・行政機関など)
□場面設定・シナリオづくり
□計画・立案・実施計画
□場面の設定(本部・院内 自宅)
□参加者の役割
□患者会の学習会 災害伝言ダイヤルの利用の練習



石川県医ケアC 中本さん ご講演(2024/5/30)より

担う比重	課題の困難さ
自助 ～ 共助 ～ 公助 行政/福祉/医療	非常用電源 ・全動機引継の確保・確保 各種連絡先/施設多岐/ヘルプカードの管理 居住施設/避難所(食 衛生/食生活)の確保 医療情報/連絡先/お薬手帳の整備更新(主治医との連携) 移動手段の確保 各種連絡網 特にLINE群 家族や主治医/支援者間 マニュアル策定・避難訓練実施 一次/福祉避難所への避難は課題山積 医ケア児/者に特化した避難先の確保!

医療的ケア児等支援センター「りあん」です。

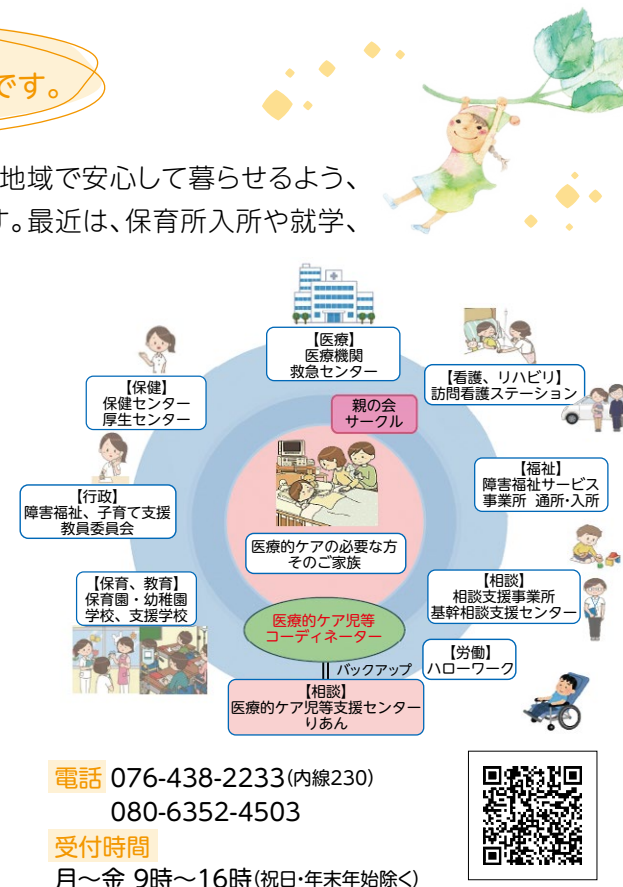
近年増えている医療的ケアの必要なお子さんが、地域で安心して暮らせるよう、ご家族や関係機関からの様々なご相談に応じています。最近では、保育所入所や就学、災害への備えに関する相談が増えています。

退院・在宅移行後も、医療的ケアの必要なお子さんの「暮らし」を丸ごと支えるためには、医療・保健・福祉・教育・行政等、様々な機関の連携が欠かせません。医療的ケア児等コーディネーターを調整・伴走役に、それぞれの分野の専門職がチームを組んで支援できるようにたらきかけています。

この他、研修等による人材育成や、医療的ケアに関する制度や県内の資源に関する情報発信、普及・啓発にも取り組んでいます。

愛称の「りあん(Lien)」は、フランス語で絆、繋がりを意味します。ご本人・ご家族と支援者、機関と機関をつなぎ、一人ひとりの笑顔ある暮らしを支えたい、そんな思いを込めました。

お気軽にご相談ください。



電話 076-438-2233(内線230)
080-6352-4503
受付時間 月～金 9時～16時(祝日・年末年始除く)

